

## 1 液化石油ガスに関する事故件数の推移

区 分		24 年	25 年	26 年	27 年	28 年
LP ガス 一般消費者等事故	全 国	260	210	187	178	136
	富山県	0	1	1	2	1

<平成 24 年> : 0 件

<平成 25 年> : 1 件

No.	事故種類	概要	死亡	重傷	軽傷
1	漏えい 火災	<p>&lt;老人保健施設における業務用オープンレンジの点火操作中の液化石油ガス漏えい爆発&gt;</p> <p>老人保健施設において、従業員が業務用オープンレンジのオープン部に点火しようとしたところ、爆発が発生し、2名が軽傷を負った。原因は、従業員がオープン下部のバーナーにライターで点火しようとしたが点火せず、器具栓を開けたままオープン扉を閉めたことによりオープン庫内にガスが滞留し、再度扉を開けて点火しようとしたため、滞留した未燃ガスにライターの火が引火したものと推定される。</p>	0	0	2

<平成 26 年> : 1 件

No.	事故種類	概要	死亡	重傷	軽傷
1	漏えい 爆発	<p>&lt;飲食店における液化石油ガス漏えい爆発事故&gt;</p> <p>飲食店の従業員が中華用ブローラーに点火したが、その後、店長が点火状況を確認したところ、火が消えていた。このため、店長が点火用ライターを用いて再点火しようとしたところ、爆発が発生した。この爆発により1名（店長）が重傷を負ったもの。</p> <p>何らかの要因で中華用ブローラーの火が消え、機器内部にガスが滞留し、十分に換気しない状態で再度点火しようとしたため、点火用ライターの火が滞留したガスに引火し爆発したものと推定される。</p>	0	1	0

<平成 27 年> : 2 件

No.	事故種類	概要	死亡	重傷	軽傷
1	中毒・ 酸欠	<p>&lt;排水分析室における一酸化炭素中毒事故&gt;</p> <p>LPガスを主に民生用に使用している施設において、排水の水質測定（蒸留操作）のため、13 時頃から、職員が1人で閉め切った分析室内でLPガスバーナーを使用していたところ、その職員が倒れた。17 時 15 分頃に分析室にきた他の職員が気づき、消防に通報し、病院へ搬送された。医師の診断では、一酸化炭素(CO)中毒の疑いがあるとされた。</p>	0	1	0
2	中毒・ 酸欠	<p>&lt;LPガスの漏えいに伴う酸欠死亡事故&gt;</p> <p>他工事業者の作業員が宅地下水道工事で公共ます直近を重機（バックホウ）にて掘削作業中に、宅地内へのガス引込管（ポリエチレン管、Φ25、埋設深さ GL-約 700mm）を破損した。当該作業員が応急措置（テープ巻き）を行うため慌てて掘削穴に入った結果、滞留LPガスによる酸素欠乏のため意識を失い、同僚の通報により救急車で病院に搬送されたが、約9時間後に死亡した。</p> <p>なお、事故発生場所には、ガス引込管の埋設位置を示す表示杭が設置済であった。</p> <p>また、作業員（死亡）のテープ巻き措置により、ガスの漏えい量は低減されたと推定される。</p> <p>その後、液化石油ガス販売事業者が、バルク貯槽からのガスの供給を緊急停止し、破損した埋設配管を補修した。</p>	1	0	0

<平成 28 年> : 1 件

No.	事故種類	概要	死亡	重傷	軽傷
1	漏えい火災	<p>&lt;家庭用ビルトインコンロからのLPガス漏えい火災事故&gt;</p> <p>販売店の検針時にS型マイコンメーターのBR表示を2月続けて確認したことから、後日点検・調査を実施した。漏えい試験の結果、元栓より下流側のビルトインコンロ近辺で漏えいが認められた。念のためビルトインコンロ直近にあるユニオンを交換したが漏えいは改善しなかったため、販売店はコンロからの漏えいと考え、消費者に当該コンロを極力使用しないよう注意喚起の上、元栓を閉止したが、同日に消費者がコンロを使用した際にコンロから出火した。</p> <p>販売店、消防、ビルトインコンロメーカー、独立行政法人製品評価技術基盤機構による調査の結果、当該コンロ内の管に応力腐食割れによる亀裂が発生したと推定された。そこから漏えいしたLPガスに点火時の火花が引火したと推定される。</p> <p>販売店では、漏えいの可能性がある場合には、使用中止の注意書きを貼るなどの方法で消費設備の使用中止を確実に消費者に伝えることとした。</p>	0	0	0